

商工会報

あち

第26号

発行 阿智村商工会
43-2241
編集 会報編集委員会
印刷 龍共印刷(株)



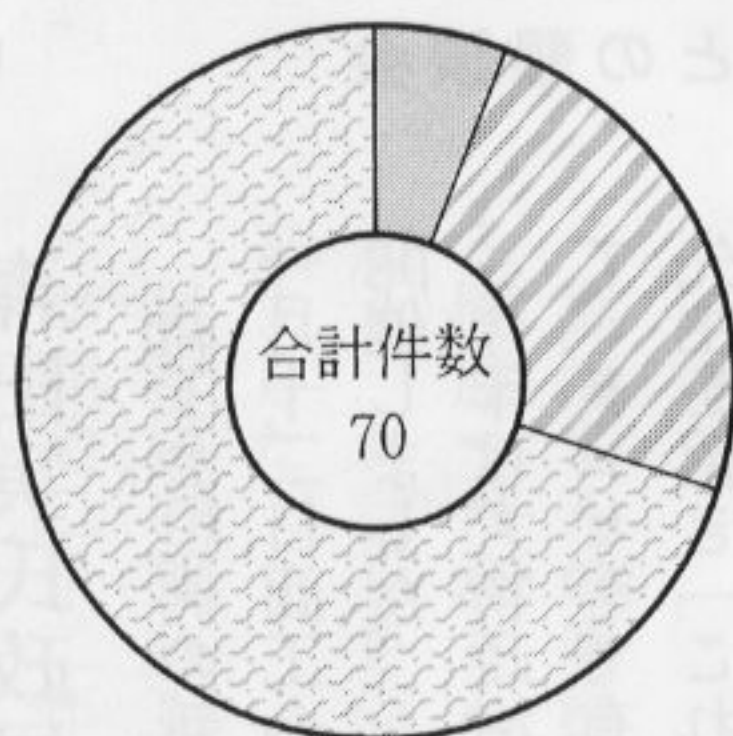
工業基盤整備調査

3割の企業が工場団地購入希望

平成3年度から、村の事務委託事業として研究してきた工業基盤整備事業の一環として、工業部では、1月18日より数日に渡って、村内の工業関係企業70社に、聞き取り調査を行いました。その内容の主だったものを掲載します。

— 工場団地の購入希望は —

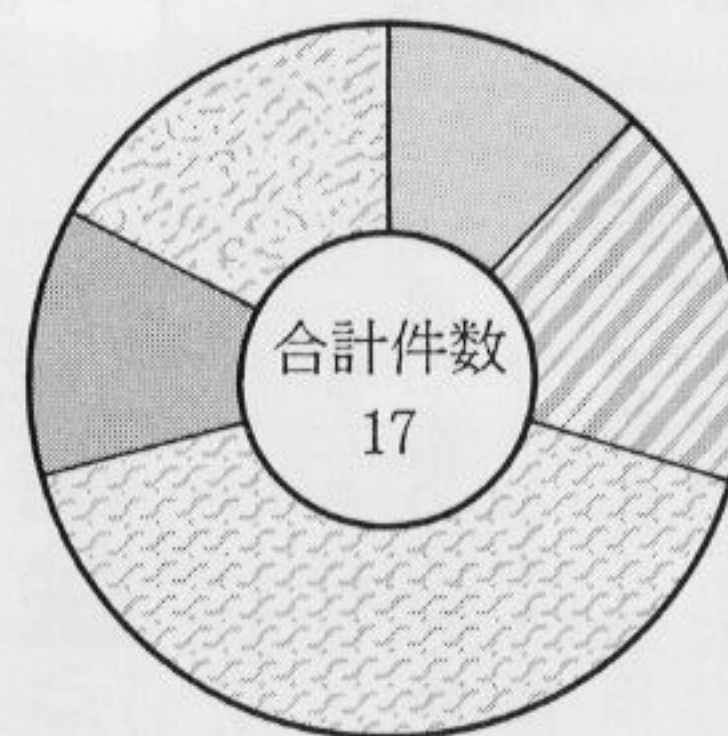
- 購入したい
5.71% (4企業)
- 値段により購入したい
24.28% (17企業)
- 購入しない
70.00% (49企業)



工業団地購入の希望は、「購入したい」あるいは、「値段により購入したい」を合わせると、全体の30% (21企業) が希望を持っている。「購入したい」とした4企業は、全て、後継者のいる企業で、「値段により購入したい」とした企業のうち76.5% (13企業) も後継者がいると回答している。

— 購入価格は —

- 1万円以下
11.76% (2企業)
- 1万円超～2万円
17.64% (3企業)
- 2万円超～3万円
41.17% (7企業)
- 3万円超～4万円
11.76% (2企業)
- 4万円超～5万円
17.64% (3企業)



購入価格の希望については、全体の70.6% (15企業) が造成後の購入価格を3万円以下と回答している。また、5万円を超える企業は、無かった。

— 景気回復はいつ頃 —

1: 平成5年 3月～ 5月	3企業	4.3%
2: " 5月～ 7月	6 "	8.6%
3: " 8月～10月	21 "	30.0%
4: " 11月～12月	4 "	5.7%
5: 6年 1月～ 3月	7 "	10.0%
6: " 4月～ 7月	5 "	7.1%
7: " 8月～10月	1 "	1.4%
8: " 11月～12月	0 "	0.0%
9: 回復は望めない	13 "	18.6%
10: わからない	10 "	14.3%

景気回復の時期については、全体の48.6% (34企業) 約半数の企業が平成5年中に景気回復を予想している。特に、全体の30% (21企業) が8月～10月と回答している。

注目をする点では、回復を望めないとした企業のうち5社ほどが、「過去の景気は、異常であった。現状の景気が普通である。今後、回復があるとすれば、また異常景気の到来と考えるべきで、企業は、この時期に体質改善を図らなければならない」と回答している。

村の将来の道しるべに

商工会関係議員懇談会

昨年十一月行われました村議選で、商工会の会員から八名の議員が誕生しました。このことは、商工会としても大変心強く思っているところであります。

そこでこの二月二十三日に関係議員の皆さんと、長野県商工会連合会の高田南信支所長さんをお願いして、懇談会を行いました。

先ず林会長から、こうした不況の時こそ商工会の責任は重いので頑張って参りたいがご指導を、とあいさつを行い熊谷議長さんからも、よい企画をしてくれたので実のある

懇談会となり、更に今後もうした機会をもつことが大切である。とごあいさつをいただきました。

続いて高田支所長から、「商工会の生立ちと使命について」お話をいただき、事務局長から阿智村商工会の現況について説明を行い懇談会に入りました。

議員の皆さんから、こうした不況の時こそ零細企業に温かい手をさしのべる様、お互いに力を合せて取り組みたい。三遠南信自動車道開通に向けての取組みの評価。又ここ数年の村内の産業別動態調査か

らみて、商工会の任務は益々重く、その活動は村の将来への道しるべであると激励もいただきました。



関係議員との懇談会

更に工業団地造成の事、労働力確保対策としての宅地造成、地価の問題等々予定の時間をオーバーして、実のある懇談会が終了できました。

一般住民参加のまちづくりに期待!!

商業部(部長原謙次)では平成三年度と四年度にかけて村の委託事業として商店街環境整備研究を行っているが、この事業の一つとして、消費者から要望の多かった駐車場用地について、村にお願いして来たが、この程熊谷智信氏所有地(下町)約八五〇㎡について村で確保していただき、この土地の活用方法については商工会及地元委ねられた。

これを受けて商工会では学識経験者、部落の代表を含む「こまなばまちづくり研究会」を二月一日発足させた。この土地の活用については駐車場の他公園、集会施設等多目的に整備を進める方向で研究をして行くことになり、住民参加のまちづくり研究会に期待がよせられている。

委員の皆さんは、委員長 原謙次(商業部長) 副委員長

信金だより

「パソコン教室」

私たちが目にする案内状、通知書の多くがワープロで作成されるようになりました。

文書作成専用機であるワープロは、基本的な、なくてはならないオフィス機器として普及、定着してきており、またパソコンにワープロソフトを組み込んで利用しているところもあります。

このように、コンピュータ機器を操作できることが要求されるようになるなかで、ワー

プロやパソコンを使ってみたいがさわったことがない、身近にあるけれど取っつきにくい、という方も多いかと思われま

す。しんきん経営相談所では、このような皆様に少しでもお役に立てればと、「パソコン教室」を開講、その第一弾として、「ワープロ入門講座」を開催しております。

時間は午後半日を二日間、講習内容はパソコンの基本操作、文書作成です。

お気軽にお問い合わせください。

恒例 新春講演会と接客講習会開催さる

森田実氏政局を直言

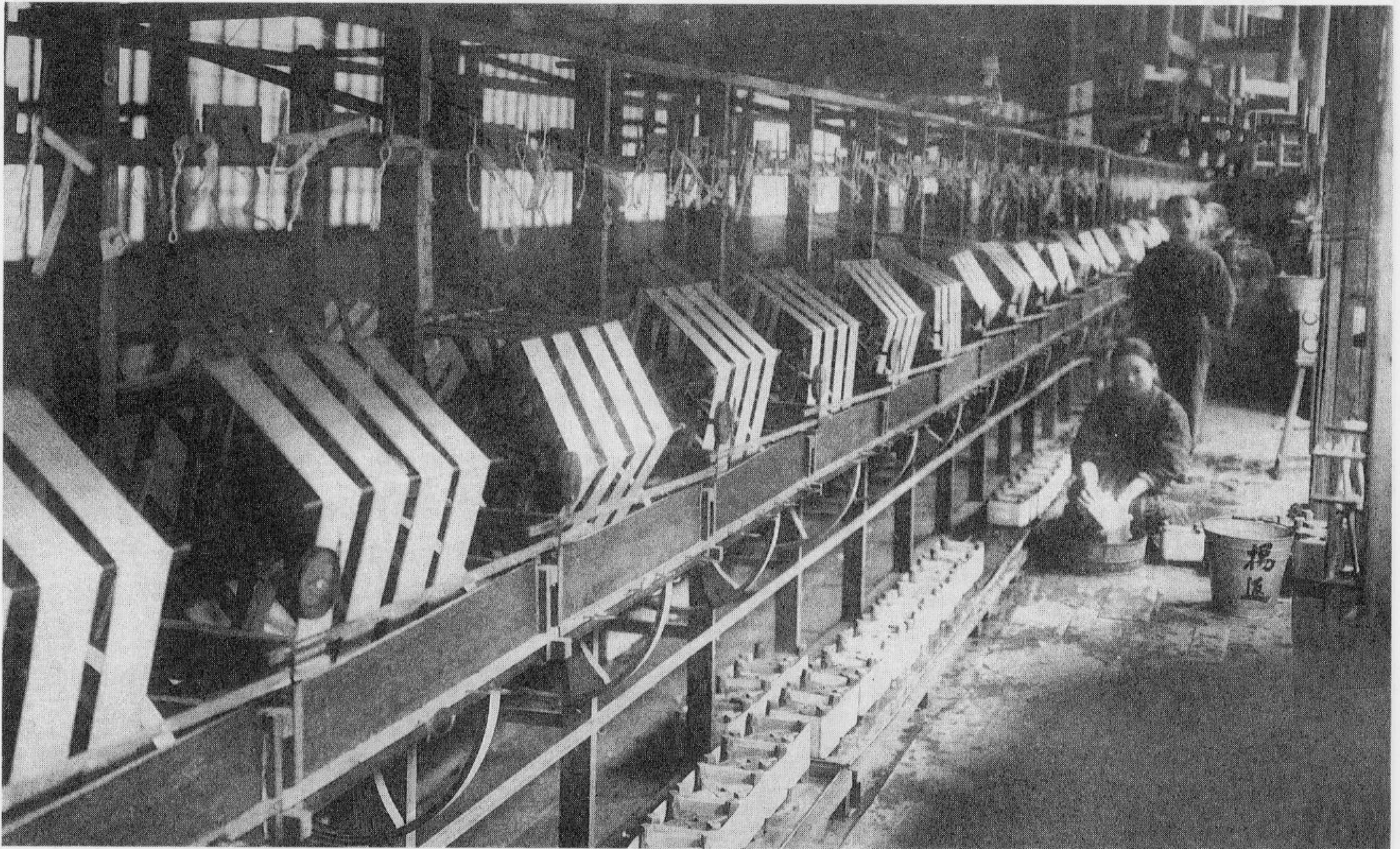
商工会恒例の新春講演会は一月十二日商工会館において開催しました。

今年は大物政治評論家として、テレビ等で有名な森田実先生を招き「これからの世界を読む、日本を読む」と題して、混迷する世界情勢から、日本の政治・経済・政局の行方等について、ズバリ直言していただだけ会場に詰めかけた聴講者に強い感銘をあたえたようでありました。

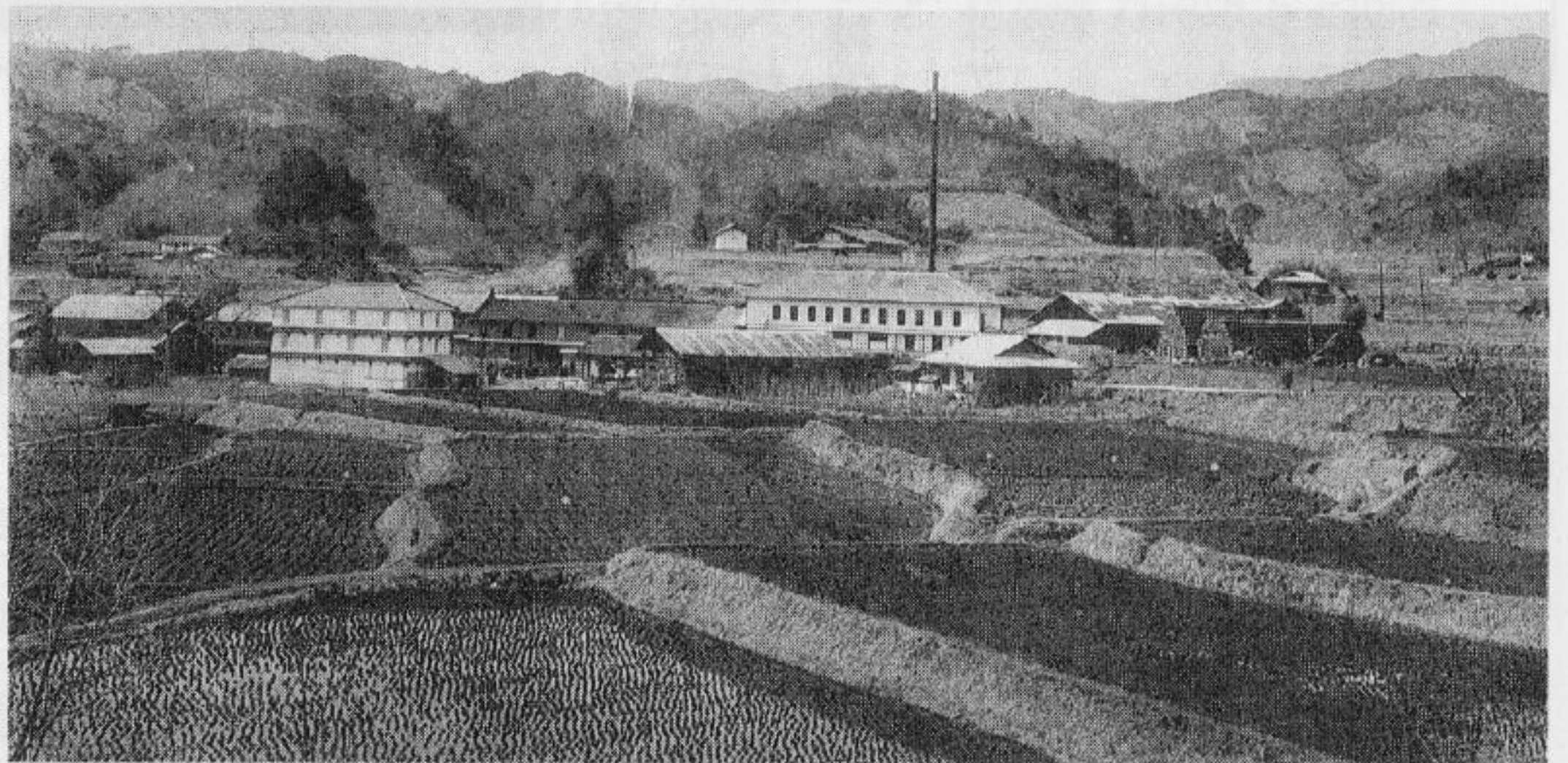
お客様を快く迎えるための接客を年間七十五万人余が訪れる屋神温泉での接客講習会は、二月十七日屋神温泉観光センターに二〇人余の受講者で開催されました。

講師に前年にお願ひし好評であった芝早智先生を迎え、接客の基本動作から接遇、電話対応等について、実習と実演を兼ねた講義は厳しさの中に楽しさもあり、初めは指名されて、引込み思案の受講者もその内になれ、和気合々と受講しておりました。

シリーズ 我が家の秘蔵写真 第14回



製糸に使われた繰糸機と工場内



「扶桑館」全景（元農協本所跡）

伍和

田中嘉治さん所蔵

嘉治さんの奥様の母にあたる園原つた江さん（八十二才）から、お話しを伺うことが出来ました。

阿智村に製糸工場が出来たのが明治二十二年でした。扶桑館（写真）は大正七年に合併前の会地村と伍和村の先覚者によって「有限責任扶桑信

用販売組合」として設立され、初代組合長が平野桑四郎氏で、当時の産業は養蚕と稲作くらいだったそうです。

学校を卒業（六年）すれば十三才で働きに出るのが習慣で働き場所は製糸工場、現代のように給料は自分が遣うためでなく、生活のため家への仕送りが目的だったようです。

つた江さんが働きに出たのが大正十二年、着物にエプロン姿で、一日働いて一円稼ぐのは大変な仕事で、それでも月に四十二円を稼いで、工場一番の働き手になったことも……。十銭でご飯茶わん一杯の水飴が買えた時代）給与は月払いで、入社一年目は養成期、二年目はお礼奉公の意味もあって給与の半分は差し引かれたそうです。

労働時間は入社当時十二時間、休日は一日と十六日の月二回、それでも盆と正月休みがあり、清内路方面から来ている人達はその折家へ帰るくらいだったようで、ほとんどが泊まり込みで働き二百人位が働いていたそうです。工場内では運動会参加、慰安映画等もあり楽しみもあったと、想い出を懐かしんで語ってくれました。

中国人講師招いて

「日本人は隠し味」

下条との合同研修会

婦人部恒例の、下条村商工会婦人部との合同研修会を、一月二十日に、阿智村商工会館で開催しました。



劉莉 講師

今年阿智村が当番で、講師には、(株)アンプル総合研究所国際事業部課長の劉莉先生をお願いして、「劉莉のみた日本と長野県」と題して、約二時間にわたってお話しをお聞きしました。

先生は中国北京市の出身で、北京市外国語学院で日本語を専攻、卒業後信州大学に留学大学院人文科学研究科を卒業

後、日本の企業に就職されました。

先生が初めて日本に来て驚いたことは、「着物」を着ている人がいないこと、日本人は皆「着物」を着ているものだと思っていたそうです。又履物を、場所ごと履きかえることにも驚いたそうです。

食文化を研究していく中で、日本人は「形式が好き」それでコミュニケーションをはかっている。「物をミックスすることが上手」「集団性が強い」「慎み・謙虚(あいまい)」な民族であることがわかったそうです。中国人は、白黒をはっきりさせるが、日本人はその場の雰囲気大切に、自分を犠牲にしても他人と同じにするとも言われました。自分の国中国について、古い文

化は知られているが、現在のことはあまり知られていない。日本の中だけでなく、世界に目を向け、その中で考える国際的感覚が必要であると話されました。



熱心に聴講する婦人部員

講演後、両婦人部の活動状況等について、意見交換を行い、その後の懇親会では、カラオケや舞踊に、日頃の練習の成果が発揮されました。

珠算検定 合格おめでとう

- 二月二十一日(日)に商工会館で実施しました、第九十三回全国商工会珠算検定試験の合格者は、次の皆さんです。
 - 二級 増井茂樹 園原恵
 - 三級 山田公子 尾沢遥
 - 四級 熊谷麻衣子 小松奈緒美 原田直 原香子 木下あや
 - 五級 田中沙織 米沢彬子 安藤辰徳 木下友子 佐々木重成 高間優
 - 六級 原智哉 肥後聖子
 - 八級 原恵理
 - 原ゆり香
- 今回の受験者は百二名、合格率は一八・六%でした。

週休二日制完全実施にご協力を

国・県・市町村の行政機関が原則として週休二日制になり、それに伴って長野県内商工会も四月から完全実施することになりました。

阿智村商工会では四月十六日に予定されております理事会に諮り、それ以降実施の予定です。ご不便をおかけすることもありますが、ご協力をお願い致します。

労災保険講習会開催

商工会では次のとおり、労働講習会を開催しますので、多くの方の受講をお願いいたします。

日時 四月九日(金)

午後一時三十分

場所 阿智村商工会館

講師 飯田労働基準監督署

飯田公共職業安定所

担当官

◎労働保険

年度更新事務

取扱中です。

編集後記

永い間の経済不況と、底知れない政界の不祥事件等の極めて好ましくない社会状況を背景に、今年も春の賃上げ交渉が始まった。

労使双方共、例年とは条件の異なる経済事情を理由に論議を交わしているが、どのような結論が出されるのか、小規模集団としての商工会員にとっても目にはなせない事柄である。交渉のなりゆきをしっかりと見据えたい。

気候に合せた暖かい情報

が要求される。皇太子様と小和田雅子さんの、御結婚の日が六月九日に内定した。

各方面、様々な意見は有るようだが、論議はそれとして、国民的には、おめでたいことである。西欧の国の皇室に見る様な無様なことのない御幸福な皇室となられることを、全国民が願っていると思う。

会報編集委員長

園原 峯正